

# 教育研究業績書

2023年10月23日

所属：薬学科

資格：講師

氏名：湯谷 玲子

研究分野	研究内容のキーワード
薬剤学, 製剤学, 医療薬科学	外用剤, 皮膚, 吸収性, 溶解性, 安定性, ドラッグデリバリー
学位	最終学歴
博士 (薬科学)	神戸薬科大学大学院薬学研究科医療薬科学専攻修士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 双方向型授業の実施	2023年4月～現在	薬物動態学 (薬学部健康生命薬科学科 2年次前期) 講義内で提示した問題や演習課題に対して、適宜学生に発言を促し、そのフィードバックを行うことで、学生の積極的な参加と理解の促進に努めている。
2. 双方向型かつ参加型の実習実施	2023年4月～現在	薬剤学実験 (薬学部健康生命薬科学科 3年次前期) 少人数のグループを作成し、適宜助言を与えながら、双方向型で、自らの力で実験からレポート作成までを行えるよう指導している。
3. Google Classroomを活用した授業の実施	2022年9月～現在	薬物動態学Ⅱ (薬学部薬学科 3年次後期) Classroomを活用し、講義資料の事前配信ならびに毎回の授業内容に関する復習問題や関連する演習問題の提示およびそれらのフィードバックを行うことで、学生の理解の促進に努めている。
4. 双方向型かつ参加型の実習実施	2022年9月～現在	薬物を製剤化し体内動態を調べる (薬学部薬学科 3年次後期) 少人数のグループを作成し、適宜助言を与えながら、双方向型で、実験からレポート作成までを行えるよう指導している。また、薬物動態学Ⅰ、Ⅱの講義とのつながりを強調し、知識と実践とが結びつくような説明を心掛けている。
5. Google Classroomを活用した授業の実施	2022年4月～現在	薬物動態学Ⅰ (薬学部薬学科 3年次前期) Classroomを活用し、毎回の授業内容の復習問題や関連する演習問題の提示およびそれらのフィードバックを行うことで、学生の理解の促進に努めている。
6. 卒業研究指導	2022年4月～現在	卒業研究Ⅰ (薬学部薬学科 4年次通年) 研究室に配属された学生に対して、研究発表や講義内容に関連した課題に関するレポート作成、グループワークを通じて、研究に必要な基本的知識や技能の修得を支援している。
7. SGD、PBLおよび体験型授業の実施	2022年4月から7月	大学学び発見ゼミ(9) (共通教育科目、1年次前期) 身近な薬を題材に、学生の主体的な学びを促せるよう、スモールグループディスカッション(SGD)、問題解決型授業(PBL)、薬を作る工程や薬の原料に触れる体験実習を取り入れた授業を行った。
8. 対面とオンラインを併用したハイブリッド型実習の実施	2021年4月から2022年7月	薬剤学実験 (薬学部健康生命薬科学科 3年次前期) 実習する様子を撮影した動画の配信と対面での実習を併用するハイブリッド型で行った。実習動画では状況に応じてカメラワークを変え、実験の臨場感が味わえるよう工夫した。また、対面での実習は、少人数のグループを作成し、双方向型で実施した。
9. Google Classroomを活用したオンデマンド型授業の実施	2020年9月～現在	薬物代謝論 (薬学部薬学科 3年次後期) 授業動画を配信することによるオンデマンド型授業を行った。Classroomを活用し、毎回の授業内容に関連した課題や演習問題の提示およびそれらのフィードバックを行うことで、学生の学習状況の把握と理解の向上に努めた。
10. Google Classroomを活用したオンデマンド型授業の実施	2020年9月～現在	総合演習Ⅰ (薬学部薬学科 4年次後期) 授業動画を配信することによるオンデマンド型授業を行った。適宜演習問題を取り入れながら、これまでに学習してきた薬物動態学分野における基礎的知識の整

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
11. 対面とオンラインを併用したハイブリッド型実習の実施	2020年9月から2022年1月	理ならびに定着を図った。 薬物を製剤化し体内動態を調べる（薬学部薬学科 3年次後期） 実習する様子を撮影した動画の配信と対面での実習を併用するハイブリッド型で行った。実習動画では、状況に応じてカメラワークを変え、実験の臨場感が味わえるよう工夫した。また、対面での実習は、双方向型で実施し、適宜助言を与えながら、学生がレポート作成まで行えるよう指導した。
12. Google Classroomを活用したオンデマンド型授業の実施	2020年9月から2022年1月	薬物動態学Ⅱ（薬学部薬学科 3年次後期） 授業動画を配信することによるオンデマンド型授業を行った。Classroomを活用し、毎回の授業内容に関連した課題や演習問題の提示およびそれらのフィードバックを行うことで、学生の学習状況の把握と理解の向上に努めた。
13. 卒業研究指導	2020年4月～現在	卒業研究Ⅱ（薬学部薬学科 5年次通年） 研究室に配属された学生に対して、研究の意義、研究者倫理、実験手技、プレゼンテーションの方法の修得や卒業論文の作成等を指導、支援している。
14. Google Classroomを活用した英語論文精読のための指導	2020年4月～現在	発展英語Ⅱ（薬学部薬学科 5年次通年） 研究室に配属された学生に対して、最新の英語論文を課題として提示し、その内容をまとめた資料を作成することを通じて、英語を研究ツールとして使用するための基本的技能の修得を指導、支援している。
15. Google Classroomを活用した演習の実施	2020年4月～現在	薬学臨床演習（薬学部薬学科 5年次通年（2020～2021）5年次前期（2022～）） Google Classroomを活用し、演習課題の提示ならびに質問対応を行い、学生の基礎的知識の定着と理解の向上に努めている。
16. Google Classroomを活用したオンデマンド型授業の実施	2020年4月～現在	臨床薬物動態学（薬学部薬学科 6年次前期） 授業動画を配信することによるオンデマンド型授業を実施している。適宜演習問題を取り入れながら、これまでに学習してきた薬物動態学分野における重要事項を整理ならびに補完することで、応用力の向上を目指している。
17. Google Classroomを活用したオンデマンド型授業の実施	2020年4月から2022年7月	薬物動態学（薬学部健康生命薬科学科 2年次前期） 授業動画を配信することによるオンデマンド型授業を行った。Classroomを活用し、毎回の授業内容に関連した課題の提示や小テストの実施、およびそれらのフィードバックを行うことで、学生の学習状況の把握と理解の向上に努めた。
18. Google Classroomを利用した卒業研究指導	2020年4月から2022年3月	卒業研究Ⅰ（薬学部薬学科 4年次通年） 研究室に配属された学生に対して、研究発表や講義を視聴させ、その内容に関連した課題についてまとめた資料を作成することを通じて、研究に必要な基本的技能の修得を支援した。
19. Google Classroomを活用したオンデマンド型授業の実施	2020年4月から2021年7月	薬物動態学Ⅰ（薬学部薬学科 3年次前期） 授業動画を配信することによるオンデマンド型授業を行った。Classroomを活用し、毎回の授業内容に関連した課題の提示およびそのフィードバックを行うことで、学生の学習状況の把握と理解の向上に努めた。
20. Google ClassroomとZoomを活用した遠隔実習の実施	2020年4月から2020年8月	薬剤学・製剤学実験（薬学部健康生命薬科学科 3年次前期） 実際に実験操作を行っている様子を撮影し、解説を加えた動画を配信することで、臨場感を味わえるよう工夫した。質問対応にはZoomを使用し、同時双方向形式で学生の疑問解消に努めた。
21. Google Classroomを活用したオンデマンド型授業の実施	2020年4月から2020年8月	薬物動態学Ⅱ（薬学部健康生命薬科学科 3年次前期） 授業動画を配信することによるオンデマンド型授業を

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
		行った。Classroomを活用し、毎回の授業内容に関連した課題の提示や小テストの実施、およびそれらのフィードバックを行うことで、学生の学習状況の把握と理解の向上に努めた。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 実習帳（薬剤学実験）	2021年4月～	実験手技の修得とレポート作成能力の向上、講義で学習した知識の定着を目的とし、実習帳の編集、作成に携わった。（対象：薬学部健康生命薬科学科 3年次生）
2. 実習帳（薬物を製剤化し体内動態を調べる）	2020年9月～	実験手技の修得とレポート作成能力の向上、講義で学習した知識の定着を目的とし、実習帳の編集、作成に携わった。（対象：薬学部薬学科 3年次生）
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		
1. 西宮市大学共通単位講座における講義	2023年6月28日	西宮市大学共通単位講座のオムニバス科目「知っておきたい薬学のおはなし」において、「くすりの形と生体内運命」に関する講義を行った。
2. 高校へ出張講義	2023年6月16日	仁川学院高等学校において、探究活動の一環として実施しているオムニバス科目「化粧品の謎」において、ドラッグデリバリーシステムに関する講義を行った。
3. 第117回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿への参加	2023年3月11日から3月12日	兵庫医科大学薬学部において開催された認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）に参加した。
4. 薬剤師を対象とした教育講演	2022年11月12日	武庫川女子大学薬学部薬学特別講座（卒後教育）において、「薬剤学的視点から考える皮膚外用剤の適正使用」との演題で講演を行った。
5. オープンキャンパスにおける体験イベントの実施	2022年6月～現在	オープンキャンパスにおいて、高校生に薬学研究的魅力を伝える体験イベント（乳がん細胞を用いた薬の研究体験）を共同担当している。
6. 高校生を対象とした研究紹介	2021年8月	オープンキャンパスにおいて、「ラボ見学」を担当し、高校生および保護者を対象に研究内容の紹介を行った。
7. 5年次実務実習における学生指導	2020年8月～現在	学生の能動的参加型実務実習を推進するため、薬局、病院の指導薬剤師とコンタクトを取り、担当学生の指導にあたっている。
8. 新任教員研修の受講	2020年4月から2020年6月	新任教員研修プログラムの受講により、武庫川女子大学の教育理念や特色についての理解を深めるとともに、教育能力の向上を図った。
9. 薬剤師を対象とした解説講義	2020年1月26日	神戸薬科大学エクステンションセンター第11回症例検討会「薬剤師が知るべき褥瘡の薬物療法」において、薬剤学・製剤学分野の大学教員の立場から解説講義を行った。
10. 「授業の基本」ワークショップへの参加	2016年07月28日	神戸薬科大学において開催された「授業の基本」ワークショップに参加した。
11. 薬剤師を対象とした教育講演	2016年4月10日	生涯研修事業の一環である神戸薬科大学同窓会兵庫県支部研修会において、「軟膏剤の構造と特性に及ぼす混合操作の影響」との演題で、大学と臨床現場を繋ぐ薬剤学・製剤学関連の事項について、教育講演を行った。
12. 第67回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿への参加	2013年07月14日から2013年07月15日	兵庫医療大学において開催された認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに参加した。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 薬剤師免許	2008年5月29日	薬剤師名簿登録（2008年5月29日）
<b>2 特許等</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 高校の学問別ガイダンスにおける講演	2022年10月15日	福山暁の星女子高等学校を訪問し、1年生の参加希望者を対象に薬学部および各学科（薬学科、健康生命薬科学科）の特色と魅力を伝える学問別ガイダンスの講師を務めた。
2. バイオサイエンス研究所 LC/MS使用検討委員	2022年7月から10月	薬学部における質量分析計共同利用規程細則と使用ルールの策定に携わった。
3. 新型コロナウイルスワクチンの職域接種への従事	2021年7月から2021年8月	武庫川女子大学にて実施した新型コロナウイルスワクチンの職域接種に薬剤師として従事し、ワクチンの管理、シリンジへの充填、監査および接種ブースへの払い出し作業を行った。
4. 科学技術予測センター（NISTEP）専門調査員	2020年7月～現在	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術予測センターの専門調査員として、科学技術分野における重要なトピックスに対する意見や情報の収集に協力している。
5. CBT・国試対策教育企画委員	2020年4月～現在	CBT・国試対策教育企画委員として、薬学部薬学科6年次生の登学禁止・自粛期間における学習意欲の維持と薬剤師国家試験に向けた学力向上のための企画立案に参画した。また、国家試験対策関連の講義や行事が円滑に実施できるよう支援した。
6. 企業における講演	2019年9月12日	マルホ株式会社 社内研修会において、薬剤学・製剤学関連の重要事項および課題について、講演を行った。
7. 兵庫県薬剤師会・病院薬剤師会・薬系5大学連携学術大会における講演	2019年03月03日	分科会5「大学と臨床現場をつなぐ研究 -臨床現場の課題解決を目指して-」において、大学と臨床現場を繋ぐ薬剤学・製剤学関連の重要事項について、講演を行った。（教育研究業績書研究業績等に関する事項その他1学会ゲストスピーカー参照）
8. 企業を対象とした研究会における講演	2016年02月24日	平成27年度「メディショナルナノテク研究会」第4回例会において、研究講演を行った。（教育研究業績書研究業績等に関する事項その他1学会ゲストスピーカー参照）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. できる薬剤師とよばれるために 上手に使いたい薬学ナレッジ101	共	2021年12月	株式会社じほう	薬剤師の基礎薬学の見直しと臨床応用能力の向上を目指した書籍において、Q30の項目（p.92-93）を執筆した。
2 学位論文				
1. ポリフェノールの皮膚デリバリーシステムとしてのマイクロエマルジョンの有効性に関する研究	単	2015年12月	徳島大学	マイクロエマルジョンによる浸透促進機構の一端を明らかにするとともにポリフェノールの皮膚デリバリー効率の改善に成功し、様々な薬物への応用可能性を提示した。
3 学術論文				
1. Comparison of various cell lines and three-dimensional mucociliary tissue model systems to estimate drug permeability using an in vitro transport on nasal absorption of rats (査読付)	共	2020年01月	Pharmaceutics, 12, 79	Tomoyuki Furubayashi, Daisuke Inoue, Noriko Nishiyama, Akiko Tanaka, <u>Reiko Yutani</u> , Shunsuke Kimura, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto, Toshiyasu Sakane ラットにおける薬物の経鼻吸収性を推定するためのモデル膜として、Calu-3細胞、Caco-2細胞、ヒト気道上皮3次元再構成モデル MucilAirが適していることを明らかにした。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
2. Comparative evaluation of the photostability of carbamazepine polymorphs and cocrystals (査読付)	共	2019年10月	Crystals, 9, 553	<u>Reiko Yutani*</u> , Ryotaro Haku, Reiko Teraoka*, Chisato Tode, Tatsuo Koide, Shuji Kitagawa, Toshiyasu Sakane, Toshiro Fukami* コクリスタル化によりカルバマゼピンの光安定性を改善するとともにコクリスタル化による分子運動性の低下が光安定化に寄与していることを明らかにした。(Issue coverに選定)
3. Improving the solid-state photostability of furosemide by its cocrystal formation (査読付)	共	2019年09月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin, 67, 940-944	Reiko Teraoka, Toshiro Fukami, Takayuki Furuishi, Hiromasa Nagase, Haruhisa Ueda, Chisato Tode, <u>Reiko Yutani</u> , Shuji Kitagawa, Toshiyasu Sakane フロセミドとニコチンアミドのコクリスタル化により紫外領域における光吸収性が低下することを明らかにし、コクリスタル化が医薬品原薬の光安定性改善の有望なアプローチとなる可能性を示した。
4. Novel strategy for the systemic delivery of furosemide based on a new drug transport mechanism (査読付)	共	2018年12月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 41, 1769-1777	Shunsuke Kimura, Akiko Kiriyama, Erika Nishimura, Shiori Sakata, Daisuke Inoue, Tomoyuki Furubayashi, <u>Reiko Yutani</u> , Akiko Tanaka, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Katumi Iga, Akira Yamamoto, Toshiyasu Sakane 水への溶解に依存しない新規膜透過機構がフロセミドにおいても観察されることを確認し、非晶質ナノ粒子化が経肺吸収性を高める有望なアプローチとなる可能性を示した。
5. Quantitative estimation of the effect of nasal mucociliary function on in vivo absorption of norfloxacin after intranasal administration to rats (査読付)	共	2018年08月	Molecular Pharmaceutics, 15, 4462-4469	Daisuke Inoue, Shunsuke Kimura, Akiko Kiriyama, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto, Ken-ichi Ogawara, Kazutaka Higaki, Akiko Tanaka, <u>Reiko Yutani</u> , Toshiyasu Sakane, Tomoyuki Furubayashi ノルフロキサシンをモデル薬物として、薬物の鼻腔内投与後の粘膜繊毛クリアランスを考慮したin vivo薬物吸収予測モデルを構築した。
6. The relationship between in vivo nasal drug clearance and in vitro nasal mucociliary clearance: Application to the prediction of nasal drug absorption (査読付)	共	2018年02月	European Journal of Pharmaceutical Sciences, 117, 21-26	Daisuke Inoue, Akiko Tanaka, Shunsuke Kimura, Akiko Kiriyama, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto, Ken-ichi Ogawara, Toshikiro Kimura, Kazutaka Higaki, <u>Reiko Yutani</u> , Toshiyasu Sakane, Tomoyuki Furubayashi in vivo鼻腔内排泄速度定数がin vitroにおける鼻粘膜上の蛍光マイクロスフェアの移動速度から予測できる可能性を示唆した。
7. Novel strategy for improving the bioavailability of curcumin based on a new membrane transport mechanism that directly involves solid particles (査読付)	共	2018年01月	European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics, 122, 1-5	Shunsuke Kimura, Akiko Kiriyama, Kaeko Araki, Mai Yoshizumi, Masakazu Enomura, Daisuke Inoue, Tomoyuki Furubayashi, <u>Reiko Yutani</u> , Reiko Teraoka, Akiko Tanaka, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto, Katsumi Iga, Toshiyasu Sakane クルクミン非晶質ナノ粒子と脂質膜との直接接触に基づく新規膜透過現象がin vivoにおいても観察されることを確認し、非晶質ナノ粒子化が経肺吸収において有効な投与形態となる可能性を示唆した。
8. Delivery of oxytocin to the brain for the treatment of autism spectrum	共	2018年01月	Molecular Pharmaceutics, 15, 1105-1111	Akiko Tanaka, Tomoyuki Furubayashi, Mari Arai, Daisuke Inoue, Shunsuke Kimura, Akiko Kiriyama, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, <u>Reiko Yutani</u> , Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto 鼻腔内投与が自閉症スペクトラムの治療を目的としたオキシトシン

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
disorder by nasal application (査読付)				の脳への送達に有用な投与経路となる可能性を示唆した。
9.1日1回型フェンタニルクエン酸塩経皮吸収型製剤の半量投与(査読付)	共	2017年12月	医療薬学, 43, 671-679	寺岡 麗子、三宅 真衣、伊藤 真依、塩野 朋香、沼田 千賀子、中山 みずえ、岡本 禎晃、平井 みどり、湯谷 玲子、北河 修治、坂根 稔康
10.1日1回貼り替え型フェンタニルクエン酸塩貼付剤(フェントステープ)の薬物残存量に影響を与える要因(査読付)		2016年03月	日本緩和医療薬学雑誌, 9, 25-32	寺岡 麗子、中山 みずえ、湯谷 玲子、沼田 千賀子、岡本 禎晃、平野 剛、富田 猛、平井 みどり、北河 修治
11.Differences in the rheological properties and mixing compatibility with heparinoid cream of brand name and generic steroidal ointments; effects of surfactants they contain (査読付)	共	2016年02月	Results in Pharma Sciences, 6, 7-14	Shuji Kitagawa, Reiko Yutani, Ryu-ichi Kodani, Reiko Teraoka
12.Prominent efficiency in skin delivery of resveratrol by novel sucrose oleate microemulsion (査読付)	共	2016年01月	Journal of Pharmacy and Pharmacology, 68, 46-55	Reiko Yutani*, Yuka Komori, Atsuko Tekeuchi, Reiko Teraoka, Shuji Kitagawa
13.Microemulsion using polyoxyethylene sorbitan trioleate and its usage for skin delivery of resveratrol to protect skin against UV-induced damage (査読付)	共	2015年09月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin, 63, 741-745	Reiko Yutani*, Reiko Teraoka, Shuji Kitagawa
14.Efficient skin delivery of resveratrol by microemulsion using pentaglycerol monolaurate as a surfactant component (査読付)	共	2015年02月	International Journal of Advanced and Nanomaterials, 1.1, 5-12	Shuji Kitagawa, Kazue Azuma, Reiko Yutani, Reiko Teraoka
15.Effects of mixing procedure itself on the structure, viscosity, and	共	2015年01月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin, 63, 43-48	Shuji Kitagawa, Megumi Fujiwara, Yuta Okinaka, Reiko Yutani, Reiko Teraoka

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
spreadability of white petrolatum and salicylic acid ointment and the skin permeation of salicylic acid (査読付)				とを明らかにした。
16. Efficient delivery and distribution in skin of chlorogenic acid and resveratrol induced by microemulsion using sucrose laurate (査読付)	共	2014年03月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin, 62, 274-280	Reiko Yutani*, Taketomo Kikuchi, Reiko Teraoka, Shuji Kitagawa 生分解性の界面活性剤であるシヨ糖脂肪酸エステル用いたマイクロエマルジョンにより疎水性のレスベラトロールに加えて親水性ポリフェノールであるクロロゲン酸の皮膚デリバリー効率についても顕著に改善されることを明らかにした。
17. ドライシロップ剤を添加したシロップ剤の秤取精度の評価 (査読付)	共	2013年02月	医療薬学 39, 98-103	駒橋 美妃、大野 靖子、湯谷 玲子、森田 真也、寺岡 麗子、北河 修治 ドライシロップ剤を添加したシロップ剤の秤取精度を上げるためには、水により十分な希釈を行い粘性を低下させる必要があることを示した。
18. Distribution of polyphenols and a surfactant component in skin during aerosol OT microemulsion-enhanced intradermal delivery (査読付)	共	2012年8月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin, 60, 989-994	Reiko Yutani, Shin-ya Morita, Reiko Teraoka, Shuji Kitagawa 他のポリフェノールに比べ、レスベラトロールが皮膚の深部である真皮へのデリバリー効率がよく、紫外線による真皮中のタンパク質の構造変化を効率よく抑制できる可能性を示唆した。(ジャーナル表紙に選定)
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 皮膚外用剤の適正使用に向けた製剤学的研究－半固形製剤の特性変化が薬物の皮膚透過性に及ぼす影響－	単	2019年03月03日	第2回兵庫県薬剤師会・病院薬剤師会・薬系5大学連携学術大会	招待依頼講演 湯谷 玲子 分科会5「大学と臨床現場をつなぐ研究－臨床現場の課題解決を目指して－」において、講演を行った。
2. ワセリンの構造、レオロジー特性と混合操作に伴う変化	共	2016年02月24日	平成27年度「メディショナルナノテク研究会」第4回例会	招待依頼講演 北河 修治、湯谷 玲子 製剤設計に向けた薬剤学・製剤学関連の重要事項と課題に関して、講演した。(本人)
<b>2. 学会発表</b>				
1. イオン輸送体を介した難治性乳がん進展の機序解明と新治療戦略	共	2023年10月14日	第73回日本薬学会関西支部総会・大会	中田万理香、的場朱里、丸橋真衣、湯谷玲子、松井千紘、大村美香、中瀬生彦、中瀬朋夏 Na <sup>+</sup> /H <sup>+</sup> 交換輸送体NHE1の活性化がトリプルネガティブ乳がん細胞の悪性化に関与し、NHE1が治療標的となる可能性について、発表した。
2. ヒト皮膚を用いた <i>in vitro</i> 透過試験によるタクロリムス軟膏剤の先発品と後発品の生物学的同等性評価	共	2023年3月	日本薬学会第143年会	湯谷玲子、中瀬朋夏 タクロリムス軟膏剤の先発品と後発品の生物学的同等性をヒト皮膚を用いた <i>in vitro</i> 透過試験により評価できる可能性について、発表した。
3. 乳がん治療薬タモキシフェンの抗がん活性に対する亜鉛の効果とその応用	共	2023年3月	日本薬学会第143年会	小西 未来、山本 有紗、崎谷 愛未、松田 紗英、山本 花那子、湯谷 玲子、中瀬 朋夏 エストロゲン受容体陽性乳がん細胞MCF-7に対するタモキシフェンの細胞毒性を亜鉛で制御できる可能性について、発表した。
4. Na <sup>+</sup> /H <sup>+</sup> 交換輸送体	共	2023年3月	日本薬学会第143年	松井 千紘、崎谷 愛未、湯谷 玲子、大村 美香、中瀬 生彦、中瀬

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
NHE1を介した低酸素環境条件下におけるトリプルネガティブ乳がん細胞の運動性制御と新たな治療戦略			会	朋夏 Na <sup>+</sup> /H <sup>+</sup> 交換輸送体NHE1がトリプルネガティブ乳がん細胞の治療標的となる可能性を明らかにし、発表した。
5. 酸化ストレス耐性機構を狙った難治性トリプル乳がんの新治療戦略とドラッグリポジショニング	共	2022年11月	第95回日本生化学会大会	松井千紘、崎谷愛未、湯谷玲子、中瀬生彦、中瀬朋夏 既存薬を併用し、トリプルネガティブ乳がん細胞の高い酸化ストレスを緩和することで、抗がん剤の効果を高めることができることを明らかにし、発表した。
6. 既存薬による鉄依存性細胞死フェロトーシスの制御を介した難治性トリプルネガティブ乳がんの新治療法の開発	共	2022年9月	第33回日本微量元素学会学術集会	松井千紘、崎谷愛未、湯谷玲子、中瀬生彦、中瀬朋夏 フェロトーシスの制御を介して、トリプルネガティブ乳がん細胞に対する既存薬の抗がん活性を高めることができることを明らかにし、発表した。
7. エストロゲン受容体陽性乳がんの抗がん治療効果を制御する亜鉛と亜鉛トランスポーターZIP6	共	2022年5月	日本薬剤学会第37回年会	崎谷愛未、松井千紘、片居木文那、関根由梨佳、田中杏、中瀬友梨香、中西優奈、錦見佳苗、藤原知里、巻野七海、松本薫、三好陽香、湯谷玲子、中瀬生彦、中瀬朋夏 エストロゲン受容体陽性乳がん細胞に対するタモキシフェンの抗がん活性を亜鉛トランスポーターを介した亜鉛イオンの供給により制御できる可能性について発表した。
8. 乳がんの低酸素環境適応応答に重要な亜鉛と亜鉛トランスポーター	共	2022年3月	日本薬学会第142年会	崎谷 愛未、松井 千紘、湯谷 玲子、中瀬 生彦、中瀬 朋夏 乳がん細胞の低酸素環境適応応答には、細胞内亜鉛イオンと亜鉛トランスポーターが必要であり、亜鉛イオンの標的分子としてMTA1が関与している可能性を明らかにし、発表した。
9. エストロゲン受容体陽性乳がんの薬剤感受性を制御する亜鉛と亜鉛トランスポーター	共	2022年2月	第 23 回日本亜鉛栄養治療研究会	崎谷 愛未、松井 千紘、片居木 文那、関根 由梨佳、田中 杏、中瀬 友梨香、中西 優奈、錦見 佳苗、藤原 知里、巻野 七海、松本 薫、三好 陽香、湯谷 玲子、中瀬 生彦、中瀬 朋夏 エストロゲン受容体陽性乳がんに対する薬剤の抗がん活性における亜鉛イオンの役割と、亜鉛トランスポーターによる制御機構について検討し、発表した。
10. シスチントランスポーターを利用した抗がん剤活性の制御とトリプルネガティブ乳がん治療の新戦略	共	2021年10月	第1回トランスポーター研究会関西支部会	松井 千紘、生島 千菜美、稲垣 寧音、緒方 魅優、後藤 栞利、赤沢 真夢、伊吹 綾香、大西 杏奈、野中 愛子、湯谷 玲子、崎谷 愛未、中瀬 生彦、中瀬 朋夏 ヒトトリプルネガティブ乳がん細胞におけるシスチントランスポーターの制御を介して、既存医薬品の抗がん活性を高めることができることを明らかにし、発表した。
11. 既存医薬品による難治性トリプルネガティブ乳がんを標的とした酸化ストレス耐性の減弱と抗がん効果	共	2021年5月	日本薬剤学会第36年会	松井 千紘、生島 千菜美、湯谷 玲子、鳥井 栄貴、中瀬 生彦、中瀬 朋夏 既存医薬品を併用し、トリプルネガティブ乳がん細胞の高い酸化ストレスを緩和することで、抗がん剤の効果を高めることができることを明らかにし、発表した。
12. 乳がん幹細胞様細胞の維持制御における亜鉛トランスポーターの役割	共	2021年5月	日本薬剤学会第36年会	中瀬 朋夏、鳥井 栄貴、松井 千紘、湯谷 玲子、中瀬 生彦 乳がん幹細胞様細胞の維持制御における亜鉛ネットワークの役割に関して発表した。
13. 難治性乳がんの酸化ストレス防御機構を標的としたドラッグリポジショニングによる治療戦略の開発	共	2021年3月	日本薬学会第141年会	生島 千菜美、稲垣 寧音、緒方 魅優、後藤 栞利、松井 千紘、湯谷 玲子、大塚 晴香、鳥井 栄貴、中瀬 生彦、中瀬 朋夏 既存医薬品を用いて、トリプルネガティブ乳がん細胞の酸化ストレス防御機構を緩和することにより、抗がん剤の効果を高める新たな治療法の可能性について発表した。
14. 亜鉛と亜鉛トランスポーターによる乳がん幹細胞様細胞の維持機構	共	2021年2月	第21回日本亜鉛栄養治療研究会学術集会	鳥井 栄貴、生島 千菜美、大塚 晴香、松井 千紘、稲垣 寧音、緒方 魅優、後藤 栞利、湯谷 玲子、中瀬 生彦、中瀬 朋夏 乳がん幹細胞様細胞の維持に対するZn <sup>2+</sup> および亜鉛トランスポーターの機能的役割とその標的分子について検討し、発表した。
15. ドラッグリポジショ	共	2020年10月	第15回トランス	生島 千菜美、松井 千紘、大塚 晴香、鳥井 栄貴、湯谷 玲子、中瀬

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
ニングによるシステムトランスポーターを標的とした難治性乳がん治療戦略の開発			ポーター研究会年会	生彦、中瀬 朋夏 システムトランスポーターを標的としたトリプルネガティブ乳がんの生死を特異的に制御できる新たな治療方法に関して、発表した。
16. 乳がん幹細胞様細胞の維持に必要な亜鉛と亜鉛トランスポーター	共	2020年10月	第15回トランスポーター研究会年会	鳥井 栄貴、生嵩 千菜美、大塚 晴香、湯谷 玲子、松井 千紘、中瀬 生彦、中瀬 朋夏 乳がん幹細胞様細胞の性状におけるZn <sup>2+</sup> および亜鉛トランスポーターの役割について検討し、発表した。
17. アスパラギン酸修飾ナノキャリアを利用した治療用放射性核種の骨標的化による骨転移抑制	共	2020年03月	日本薬学会第140年会	吉岡 綾音、勝見 英正、福井 美奈子、高木 千聖、山下 修吾、湯谷 玲子、田中 晶子、古林 呂之、木村 寛之、河嶋 秀和、森下 将輝、坂根 稔康、山本 昌 アスパラギン酸修飾ナノキャリアを利用した骨標的化による治療用放射性核種の骨転移抑制効果を評価し、発表した。
18. 各種製剤化 $\alpha$ -Galactosylceramideの鼻腔内投与による免疫活性化	共	2020年03月	日本薬学会第140年会	古林 呂之、大島 千尋、田中 晶子、井上 大輔、湯谷 玲子、坂根 稔康 各種製剤化した $\alpha$ -Galactosylceramideの免疫活性化作用を評価し、発表した。
19. 鼻腔内投与されたoxytocinの脳内移行特性	共	2020年03月	日本薬学会第140年会	田中 晶子、松田 芳明、田村 大樹、越路 亜莉紗、井上 大輔、勝見 英正、山本 昌、湯谷 玲子、古林 呂之、坂根 稔康 鼻腔内投与後のoxytocinの脳内移行性を評価し、発表した。
20. 外用剤の適用方法が薬物の皮膚透過性に及ぼす影響－外用消炎鎮痛剤に関する検討－	共	2020年03月	日本薬学会第140年会	湯谷 玲子、則松 明莉、廣瀬 理紗子、佐藤 美佳、井上 喬允、野崎 学、宇野 明、矢野 博子、田中 晶子、古林 呂之、坂根 稔康 適用方法が外用消炎鎮痛剤の皮膚透過性に及ぼす影響を評価し、発表した
21. 半固形製剤の混合性に影響する因子の検討(2)－同一基剤間および異なる基剤間の混合性の比較－	共	2019年11月	第29回日本医療薬学会年会	湯谷 玲子、山地 佑太、今坂 優希、河野 真希、安福 泉、田中 晶子、古林 呂之、坂根 稔康 半固形製剤の混合性に影響する因子を同一基剤間、異なる基剤間で解析し、発表した。
22. 鼻腔より直接脳内に移行した薬物の脳内動態	共	2019年10月	第69回日本薬学会関西支部大会	西川 絵里、田中 晶子、山本 友理、別當 華歩、高橋 咲恵、井上 大輔、湯谷 玲子、古林 呂之、坂根 稔康 鼻腔から直接脳内に移行した薬物の脳内動態をMicrodialysis法により評価し、発表した。
23. 薬物の消化管吸収に対する消化管内容物の影響－人口膜を用いた評価－	共	2019年10月	第69回日本薬学会関西支部大会	柴谷 恭佑、金山 裕孝、田中 晶子、湯谷 玲子、古林 呂之、坂根 稔康 人工膜を用いて消化管内容物が薬物の透過性に及ぼす影響を評価し、発表した。
24. 外用剤の適用方法が薬物の皮膚透過性に及ぼす影響	共	2019年10月	第69回日本薬学会関西支部大会	三浦 真由美、堀井 みなみ、佐藤 美佳、則松 明莉、廣瀬 理紗子、湯谷 玲子、井上 喬允、宇野 明、矢野 博子、坂根 稔康 外用剤の適用方法による皮膚浸透性の相違を評価し、発表した。
25. Transnasal delivery of oxytocin to the brain for the treatment of autism spectrum disorder	共	2019年7月	第3回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ	Hiroki Tamura, Akiko Tanaka, Yoshiaki Matsuda, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto, Reiko Yutani, Tomoyuki Furubayashi, Toshiyasu Sakane 自閉症スペクトラムの治療に対するオキシトシンの鼻腔内投与の有用性を評価し、発表した。
26. Effects of gastrointestinal content on the membrane transport of drugs	共	2019年7月	第3回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ	Hirokata Kanayama, Kyousuke Shibatani, Akiko Tanaka, Reiko Yutani, Tomoyuki Furubayashi, Toshiyasu Sakane 消化管内容物が薬物の膜透過性に及ぼす影響を評価し、発表した。
27. ステロイド軟膏と保湿軟膏剤との併用：塗布の順番とステロイドの経皮吸収性との関係	共	2019年07月	医療薬学フォーラム2019 第27回クリニカルファーマシーシンポジウム	田中 晶子、川上 栞里、藩守 一朗、山本 武、古川 健一郎、湯谷 玲子、古林 呂之、坂根 稔康 ステロイド軟膏剤と保湿剤の塗布順序がステロイドの皮膚透過性に及ぼす影響を評価し、発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
28. 鼻腔内投与された Oxytocinの脳内移行特性	共	2019年6月	第35回日本DDS学会学術集会	松田 芳明、田中 晶子、田村 大樹、井上 大輔、勝見 英正、山本 昌、湯谷 玲子、古林 呂之、坂根 稔康 鼻腔内投与後のoxytocinの脳内移行性を評価し、発表した。
29. 鼻腔より直接脳内に移行した薬物の脳内動態	共	2019年06月	第35回日本DDS学会学術集会	田中 晶子、山本 有理、西川 絵里、井上 大輔、湯谷 玲子、古林 呂之、坂根 稔康 鼻腔から直接脳内に移行した薬物の脳内動態をMicrodialysis法により評価し、発表した。
30. $\alpha$ -Galactosylceramideの鼻腔内投与による免疫活性化に関する検討	共	2019年06月	第35回日本DDS学会学術集会	古林 呂之、大島 千尋、井上 大輔、田中 晶子、湯谷 玲子、坂根 稔康 $\alpha$ -Galactosylceramideの鼻腔内投与に使用する脂質乳剤の組成が免疫活性化作用に及ぼす影響を評価し、発表した。
31. 鼻腔内投与後の脳への薬物移行機構の解析	共	2019年05月	日本薬剤学会第34年会	田中 晶子、別當 華歩、井上 大輔、湯谷 玲子、古林 呂之、坂根 稔康 鼻腔内投与後の薬物の脳への移行機構を解析し、発表した。
32. ラマン分光法を利用した粉末状薬物の経鼻吸収性推定法の構築Ⅲ～培養細胞上での粉末粒子の溶解解析～	共	2019年05月	日本薬剤学会第34年会	古林 呂之、清原 万美子、井上 大輔、森山 圭、田中 晶子、湯谷 玲子、坂根 稔康 ラマン分光法を利用して、培養細胞上での粉末粒子の溶解状態を解析し、発表した。
33. 鼻腔内投与後の脳への薬物移行特性の解析：脳の部位別動態に基づく評価	共	2019年05月	日本薬剤学会第34年会	井上 大輔、田中 晶子、湯谷 玲子、古林 呂之、坂根 稔康 鼻腔内投与後の薬物の脳内動態を脳の部位別に評価し、発表した。
34. 一般用単味イブプロフェン錠の溶出挙動の比較	共	2019年05月	日本薬剤学会第34年会	西村 菜菜、辻中 映美、田中 晶子、湯谷 玲子、古林 呂之、坂根 稔康、四方田 千佳子 一般用医薬品で単一有効成分のみを含むイブプロフェン錠の溶出挙動を比較評価し、発表した。
35. 一般用ロキソプロフェン錠の溶出挙動の比較	共	2019年05月	日本薬剤学会第34年会	辻中 映美、西村 菜菜、田中 晶子、湯谷 玲子、古林 呂之、坂根 稔康、四方田 千佳子 一般用医薬品のロキソプロフェン錠の溶出挙動を比較評価し、発表した。
36. 薬物の消化管吸収に対する消化管内容物の影響：人工膜を用いた評価	共	2019年05月	日本薬剤学会第34年会	柴谷 恭佑、津田 佳央莉、田中 晶子、湯谷 玲子、古林 呂之、坂根 稔康 人工膜を用いて薬物の透過性に対する消化管内容物の影響を評価し、発表した。
37. ラマン分光法によるワセリンの結晶性の可視化	共	2019年05月	日本薬剤学会第34年会	湯谷 玲子、山中 貴裕、寺岡 麗子、北河 修治、坂根 稔康 ラマン分光法によりワセリンの結晶性の変化の解析が可能であることを明らかにし、発表した。
38. 鼻腔内投与による $\alpha$ -Galactosylceramideの頸部リンパ節送達性改善に関する検討	共	2019年03月	日本薬学会第139年会	古林 呂之、田中 晶子、井上 大輔、小林 正樹、湯谷 玲子、坂根 稔康 鼻腔内投与後の $\alpha$ -Galactosylceramideの頸部リンパ節送達性を評価し、発表した。
39. 薬物の骨ターゲティングを目的としたデンドロン型高分子ミセル製剤の開発	共	2019年03月	日本薬学会第139年会	山下 修吾、勝見 英正、田中 晶子、湯谷 玲子、古林 呂之、森下 将輝、山本 昌、坂根 稔康 デンドロン型高分子ミセル製剤を用いる薬物の骨ターゲティング能を評価し、発表した。
40. 半固形製剤の混合性に影響する因子の検討－軟膏、クリーム基剤間の混合性の比較－	共	2019年03月	日本薬学会第139年会	湯谷 玲子、河野 真希、安福 泉、今坂 優希、山地 佑太、田中 晶子、古林 呂之、坂根 稔康 半固形製剤の混合性に影響を及ぼす因子を同一軟膏基剤間、クリーム基剤間で解析し、発表した。
41. テノホビルアラフェナミドフマル酸塩を含有するデシコピ配合錠の簡易懸濁法適用時の安定性	共	2018年11月	第28回医療薬学会年会	寺岡 麗子、矢倉 裕輝、出口 千裕、湯谷 玲子、坂根 稔康 デシコピ配合錠に簡易懸濁法を適用した際の主薬の熱安定性を評価し、発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
42. 混合調剤がサリチル酸ワセリン軟膏の特性および主薬の皮膚透過性に及ぼす影響	共	2018年11月	第28回医療薬学会年会	穴戸 康剛、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、坂根 稔康 他の製剤との混合がサリチル酸ワセリン軟膏の特性とサリチル酸の皮膚透過性に及ぼす影響を評価し、発表した。
43. 亜鉛華単軟膏のレオロジー特性と混合性に及ぼす保存温度の影響	共	2018年11月	第28回医療薬学会年会	加藤 薫、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、坂根 稔康 保存温度が亜鉛華単軟膏のレオロジー特性とアズノール軟膏との混合性に及ぼす影響を評価し、発表した。
44. 酸化チタン含有フィルムコーティング膜中の可塑剤が錠剤の製剤特性に及ぼす影響	共	2018年10月	第68回日本薬学会近畿支部総会・大会	瀬分 修平、寺岡 麗子、松島 由貴、田中 晶子、 <u>湯谷 玲子</u> 、坂根 稔康 酸化チタンを含むフィルムコーティング膜中の可塑剤が錠剤の特性に及ぼす影響を評価し、発表した。
45. 薬物の口腔粘膜を介した吸入：鼻腔内投与後の薬物吸収との比較	共	2018年10月	第68回日本薬学会近畿支部総会・大会	松田 芳明、遠山 裕太、田中 晶子、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、坂根 稔康 口腔粘膜からの薬物吸収性を鼻腔内投与後の薬物吸収性と比較評価し、発表した。
46. スイッチOTC 鎮痛解熱薬の溶出性の比較検討	共	2018年10月	第68回日本薬学会近畿支部総会・大会	辻中 映美、西村 菜菜、田中 晶子、 <u>湯谷 玲子</u> 、坂根 稔康、四方田 千佳子 スイッチOTC解熱鎮痛薬の溶出性を比較評価し、発表した。
47. 生理活性ペプチドの鼻腔内投与による脳への送達と中枢疾患治療への応用	共	2018年09月	第27回DDSカンファレンス	田中 晶子、高山 健太郎、井上 大輔、古林 呂之、勝見 英正、山本 昌、 <u>湯谷 玲子</u> 、林 良雄、坂根 稔康 生理活性ペプチドの鼻腔内投与による脳移行性を評価し、発表した。
48. 鼻腔内投与によるoxytocinの脳内送達	共	2018年09月	第23回創剤フォーラム若手研究会	田中 晶子、井上 大輔、古林 呂之、 <u>湯谷 玲子</u> 、勝見 英正、山本 昌、坂根 稔康 鼻腔内投与によるoxytocinの脳内デリバリーを評価し、発表した。
49. 鼻腔内投与による薬物の効率的脳内送達システムの開発：脳部位別評価に基づく脳移行メカニズムの解明	共	2018年09月	第23回創剤フォーラム若手研究会	井上 大輔、田中 晶子、 <u>湯谷 玲子</u> 、坂根 稔康、古林 呂之 鼻腔内投与後の薬物の脳移行メカニズムを脳の部位ごとに解析し、発表した。
50. 薬物の消化管吸収に対する消化管内容物の影響	共	2018年09月	第23回創剤フォーラム若手研究会	柴谷 恭佑、明石 華奈、田中 晶子、 <u>湯谷 玲子</u> 、坂根 稔康 薬物の膜透過性に及ぼす消化管内容物の影響を人工膜を用いて評価し、発表した。
51. ロキソプロフェン含有一般用医薬品の溶出挙動の比較	共	2018年08月	日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 第12回学術大会	西村 菜菜、辻中 映美、田中 晶子、 <u>湯谷 玲子</u> 、坂根 稔康、四方田 千佳子 一般用医薬品のロキソプロフェン錠の溶出挙動を比較評価し、発表した。
52. マン分光法を利用した粉末状薬物の経鼻吸収性推定法の構築Ⅱ～培養細胞上での溶解パターン評価～	共	2018年06月	日本薬剤学会第33年会	古林 呂之、清原 万美子、井上 大輔、森山 圭、田中 晶子、勝見 英正、山本 昌、 <u>湯谷 玲子</u> 、坂根 稔康 ラン分光法により培養細胞上における粉末状薬物の溶解挙動を評価し、発表した。
53. 鼻腔内投与による生理活性ペプチドの脳内送達	共	2018年06月	第34回日本DDS学会学術集会	坂根 稔康、田中 晶子、 <u>湯谷 玲子</u> 、井上 大輔、古林 呂之、勝見 英正、山本 昌 鼻腔から投与した生理活性ペプチドの脳内デリバリーを評価し、発表した。
54. 鼻腔内投与による脳への薬物送達Ⅴ：脳内各部位の個別評価に基づく鼻腔-脳間の薬物移行メカニズムの解析	共	2018年06月	第34回日本DDS学会学術集会	井上 大輔、田中 晶子、勝見 英正、山本 昌、 <u>湯谷 玲子</u> 、坂根 稔康、古林 呂之 鼻腔から投与した薬物が脳に移行するメカニズムを解析し、発表した。
55. 粉末製剤投与後の薬物の経鼻吸収性に対するムチンの影響	共	2018年06月	第34回日本DDS学会学術集会	田中 晶子、井上 大輔、古林 呂之、勝見 英正、 <u>湯谷 玲子</u> 、坂根 稔康、山本 昌 粉末製剤投与後の薬物の経鼻吸収性に及ぼすムチンの影響を評価し、発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
56. 鼻腔内投与による $\alpha$ - Galactosylceramide の頸部リンパ節への直接送達に関する検討	共	2018年06月	第34回日本DDS学会学術集会	古林 呂之、井上 大輔、小林 正樹、勝見 英正、山本 昌、田中 晶子、湯谷 玲子、坂根 稔康 鼻腔内投与による $\alpha$ -Galactosylceramideの頸部リンパ節への直接的な移行性を評価し、発表した。
57. 鼻腔内投与による脳への薬物送達IV：Microdialysis法による脳移行性の定量評価	共	2018年05月	日本薬学会第33年会	井上 大輔、田中 晶子、勝見 英正、山本 昌、湯谷 玲子、坂根 稔康、古林 呂之 鼻腔内投与後の薬物の脳移行性をMicrodialysis法を用いて評価し、発表した。
58. $\alpha$ - Galactosylceramide の鼻粘膜透過性改善を目指した製剤最適化に関する検討	共	2018年03月	日本薬学会第138年会	古林 呂之、小林 正樹、松原 嘉子、井上 大輔、田中 晶子、勝見 英正、山本 昌、湯谷 玲子、寺岡 麗子、坂根 稔康 $\alpha$ - Galactosylceramideの鼻粘膜透過性を製剤の処方を変化させて評価し、発表した。
59. 種々のカルバマゼピン-ジカルボン酸共結晶の光安定性比較	共	2018年03月	日本薬学会第138年会	羽澤 知穂、寺岡 麗子、都出 千里、湯谷 玲子、坂根 稔康 カルバマゼピンとジカルボン酸との共結晶の光安定性を比較評価し、発表した。
60. 他剤との混合に伴うサリチル酸ワセリン軟膏のレオロジー特性と経皮吸収性の変化	共	2017年11月	第27回日本医療薬学会年会	湯谷 玲子、田原 花奈子、宍戸 康剛、寺岡 麗子、北河 修治、坂根 稔康 他の製剤との混合がサリチル酸ワセリン軟膏のレオロジー特性と薬物の皮膚透過性に及ぼす影響を評価し、発表した。
61. ワセリンを基剤とする軟膏剤の特性に及ぼす攪拌操作および温度の影響	共	2017年11月	第27回日本医療薬学会年会	三木 奏人、田路 隆了、湯谷 玲子、寺岡 麗子、坂根 稔康 攪拌操作と保存温度がワセリンを基剤とする軟膏剤の特性に及ぼす影響を評価し、発表した。
62. テノホビルのプロドラッグを含有する2種類の抗HIV薬の簡易懸濁法適用の可否	共	2017年11月	第27回日本医療薬学会年会	出口 千裕、寺岡 麗子、矢倉 裕輝、湯谷 玲子、坂根 稔康 テノホビルのプロドラッグを含有する抗HIV薬の簡易懸濁法適用の可否を評価し、発表した。
63. Measurement of dissolution profiles of powdery drugs by Raman spectroscopy and its application to prediction of nasal drug absorption	共	2017年11月	2017 AAPS Annual Meeting and Exposition	Tomoyuki Furubayashi, Nana Izumi, Daisuke Inoue, Kei Moriyama, Akiko Tanaka, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto, Reiko Yutani, Reiko Teraoka, Toshiyasu Sakane 薬物の経鼻吸収性の予測に向けラマン分光法により粉末製剤の溶解プロファイルを評価し、発表した。
64. Direct nose to brain delivery of CNS drugs: The effect of glymphatic system on pharmacokinetics and brain distribution of sulpiride after nasal application	共	2017年11月	2017 AAPS Annual Meeting and Exposition	Daisuke Inoue, Akiko Tanaka, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto, Reiko Yutani, Reiko Teraoka, Toshiyasu Sakane, Tomoyuki Furubayashi 鼻腔内投与後のスルピリドの脳内分布とグリンファティックシステムの影響を評価し、発表した。
65. Direct delivery of CNS drugs to the brain by nasal application III: Pharmacokinetic analysis of the	共	2017年11月	日本薬物動態学会第32回年会	Daisuke Inoue, Akiko Tanaka, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto, Reiko Yutani, Reiko Teraoka, Toshiyasu Sakane, Tomoyuki Furubayashi 脳実質への薬物デリバリーにおけるグリンファティックシステムの影響を評価し、発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
effect of glymphatic system on drug delivery to brain parenchyma 66. Effects of mixing with other ointments and creams on rheological properties of salicylic acid ointment and skin permeation of salicylic acid	共	2017年10月	第11回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム	<u>Reiko Yutani</u> , Kanako Tawara, Yasutaka Shishido, Reiko Teraoka, Shuji Kitagawa, Toshiyasu Sakane 他の軟膏剤やクリーム剤との混合がサリチル酸ワセリン軟膏のレオロジー特性とサリチル酸の皮膚透過性に及ぼす影響を評価し、発表した。
67. Direct nose to brain delivery of CNS drugs: The effect of glymphatic system on drug distribution in brain parenchyma	共	2017年10月	第11回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム	Daisuke Inoue, Akiko Tanaka, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto, <u>Reiko Yutani</u> , Reiko Teraoka, Toshiyasu Sakane, Tomoyuki Furubayashi 脳実質における薬物分布に対するグリンファティックシステムの影響を評価し、発表した。
68. 経鼻ルートを紹介した薬物の頸部リンパ節ターゲティングと速度論解析	共	2017年07月	医療薬学フォーラム2017 第25回クリニカルファーマシーシンポジウム	古林 呂之、井上 大輔、田中 晶子、勝見 英正、山本 昌、湯谷 玲子、寺岡 麗子、坂根 稔康 鼻腔内投与による薬物の頸部リンパ節への薬物移行性を速度論的に解析し、発表した。
69. 在宅中心静脈栄養法を適用するための注射薬混合高カロリー輸液の安定性評価－エルネオパ輸液にリンデロン注を混合した場合の各成分の安定性－	共	2017年07月	医療薬学フォーラム2017 第25回クリニカルファーマシーシンポジウム	中山 加菜恵、寺岡 麗子、黒田 英津子、青木 菜摘、入江 穂花、湯谷 玲子、坂根 稔康 エルネオパ輸液にリンデロン注を混合した場合の各成分の保存安定性を評価し、発表した。
70. 他剤との混合に伴うワセリン軟膏からのサリチル酸の経皮吸収性の変化	共	2017年07月	医療薬学フォーラム2017 第25回クリニカルファーマシーシンポジウム	田原 花奈子、穴戸 康剛、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治、坂根 稔康 他の製剤と混合した際に、ワセリンを基剤とする軟膏剤からのサリチル酸の皮膚透過性の変化を評価し、発表した。
71. 市販リマプロスタールファデクス錠の分解速度の湿度依存性	共	2017年05月	日本薬剤学会第32年会	松本 祐樹、寺岡 麗子、湯谷 玲子、坂根 稔康 リマプロスタールファデクス錠の分解速度と吸湿性との関係を解析し、発表した。
72. New preparation method for two crystal forms of ciprofloxacin saccharinate and their photostability and hygroscopic property	共	2017年05月	6th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress 2017	Reiko Teraoka, Misako Matsukawa, Tomoko Miyazaki, <u>Reiko Yutani</u> , Chisato Tode, Toshiyasu Sakane 2種のシプロフロキサシンサッカリン塩の新規調製法を開発し、それらの光安定性および吸湿性を評価し、発表した。
73. Microemulsions using sucrose laurate with various co-surfactants and their application to intradermal delivery of (-)-	共	2017年05月	6th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress 2017	<u>Reiko Yutani</u> , Yumi Tsutsumi, Reiko Teraoka, Toshiyasu Sakane 種々の補助界面活性剤を用いたショ糖ラウリン酸エステルマイクロエマルジョンによる(-)-エピカテキンの皮膚デリバリーの改善効果を評価し、発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
epicatechin 74. Transnasal delivery of the peptide to the brain	共	2017年03月	International Symposium on Drug Delivery and Pharmaceutical Sciences	Toshiyasu Sakane, <u>Reiko Yutani</u> , Reiko Teraoka, Akiko Tanaka, Yuki Takemura, Koji Taketa, Kentaro Takayama, Yoshio Hayashi, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto 鼻腔内投与による生理活性ペプチドの脳内デリバリーを評価し、発表した。
75. 鼻腔内投与による CPN-116の脳内送達	共	2017年03月	日本薬学会第137年会	坂根 稔康, 田中 晶子, 竹村 有希, <u>湯谷 玲子</u> , 寺岡 麗子, 武田 康嗣, 高山 健太郎, 草森 浩輔, 勝見 英正, 林 良雄, 山本 昌 鼻腔内投与による生理活性ペプチドCPN-116の脳内移行性を評価し、発表した。
76. 攪拌操作に伴う白色ワセリンのレオロジー特性の経時的変化	共	2017年03月	日本薬学会第137年会	田路 隆了, <u>湯谷 玲子</u> , 寺岡 麗子, 坂根 稔康 攪拌操作に伴う白色ワセリンのレオロジー特性の経時変化を評価し、発表した。
77. プルリフロキサシンとサッカリン塩及び種々の有機酸塩の光安定性及び熱安定性	共	2017年03月	日本薬学会第137年会	土居 千沙, 寺岡 麗子, <u>湯谷 玲子</u> , 都出 千里, 坂根 稔康 プルリフロキサシンとサッカリン塩および種々の有機酸塩の光安定性と熱安定性を評価し、発表した。
78. シプロフロキサシンサッカリン塩結晶多形の新規調製方法とその物理化学的特性および光安定性	共	2017年03月	日本薬学会第137年会	松川 美佐子, 宮崎 智子, 寺岡 麗子, <u>湯谷 玲子</u> , 都出 千里, 坂根 稔康 シプロフロキサシンサッカリン塩結晶多形の新規調製法を開発し、その物理化学的特性と光安定性を評価し、発表した。
79. 2-ヒドロキシプロピル-γ-シクロデキストリンとエトキシジクリコールによるケルセチンの経皮吸収性改善	共	2016年09月	第33回シクロデキストリンシンポジウム	清水 和香, 寺岡 麗子, <u>湯谷 玲子</u> , 北河 修治, 坂根 稔康 2-ヒドロキシプロピル-γ-シクロデキストリンとエトキシジクリコールによるケルセチンの経皮吸収性改善効果を評価し、発表した。
80. フェンタニル3日用テープ剤の先発品と後発品の溶出性、皮膚透過性及び貼付済みテープ剤中のフェンタニル残存率の比較	共	2016年09月	第26回日本医療薬学会年会	武田 真伊子, 中山 加菜恵, 寺岡 麗子, <u>湯谷 玲子</u> , 沼田 千賀子, 岡本 禎晃, 大槻 裕朗, 高子 優子, 平井 みどり, 北河 修治, 坂根 稔康 フェンタニル3日用テープ剤の先発品と後発品の溶出性、皮膚透過性、貼付済みテープ中の薬物残存率を比較評価し、発表した。
81. ドルテグラビルナトリウム錠の簡易懸濁時の錠剤崩壊性、チューブ通過性および安定性について	共	2016年09月	第26回日本医療薬学会年会	松尾 理世, 出口 千裕, 寺岡 麗子, 矢倉 裕輝, <u>湯谷 玲子</u> , 北河 修治, 坂根 稔康 抗HIV薬であるドルテグラビル錠に簡易懸濁法を適用した際の錠剤崩壊性、チューブ通過性および安定性を評価し、発表した。
82. 亜鉛華単軟膏のレオロジー特性とアズノール軟膏との混合性	共	2016年09月	第26回日本医療薬学会年会	佐藤 麻衣子, 田路 隆了, 田原 花奈子, <u>湯谷 玲子</u> , 寺岡 麗子, 北河 修治, 坂根 稔康 亜鉛華単軟膏のレオロジー特性とのアズノール軟膏との混合性を評価し、発表した。
83. Half dose administration using once-a-day fentanyl patch 12.5 μg/h with film dressings	共	2016年06月	9th World Research Congress of the European Association for Palliative Care	Reiko Teraoka, Mai Miyake, Yoshiaki Okamoto, Mizue Nakayama, Chikako Numata, Midori Hirai, <u>Reiko Yutani</u> , Shuji Kitagawa フィルムドレッシング材による1日1回型フェンタニルパッチの用量調節の可能性を検討し、発表した。
84. シプロフロキサシンとそのサッカリン塩の光安定性比較	共	2016年05月	日本薬剤学会第31年会	宮崎 智子, 安藤 未裕, 寺岡 麗子, 都出 千里, 長瀬 弘昌, <u>湯谷 玲子</u> , 北河 修治 シプロフロキサシンとそのサッカリン塩の光安定性を比較評価し、発表した。
85. 種々の界面活性剤を用いたマイクロエマルジョンによるレス	共	2016年05月	日本薬剤学会第31年会	浅田 めぐみ, <u>湯谷 玲子</u> , 寺岡 麗子, 北河 修治 種々の界面活性剤を用いたマイクロエマルジョンによるレスベラトロールの皮膚デリバリー改善効果を比較評価し、発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
ベラトロールの皮膚デリバリー改善				
86. 種々の補助界面活性剤を用いたマイクロエマルジョンによるポリフェノールの皮膚デリバリー改善効果の比較	共	2016年05月	日本薬剤学会第31年会	堤 夕実、信野 亜由美、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 種々の補助界面活性剤を用いたマイクロエマルジョンによるポリフェノールの皮膚デリバリー改善効果を比較評価し、発表した。
87. ジフルブレドナート含有軟膏剤の先発品と後発品のレオロジー特性と混合操作の影響	共	2016年05月	日本薬剤学会第31年会	猪原 振一、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 ジフルブレドナート含有軟膏剤の先発品と後発品のレオロジー特性の違いと混合操作による影響を評価し、発表した。
88. 白色ワセリンの製品間でのレオロジー特性の違いと混合操作の影響	共	2016年05月	日本薬剤学会第31年会	三宅 真唯、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 白色ワセリンのレオロジー特性の製品間の違いと混合操作の影響を評価し、発表した。
89. シクロデキストリン包接化によるケルセチンの皮膚移行性の改善	共	2016年03月	日本薬学会第136年会	中部 由香莉、寺岡 麗子、 <u>湯谷 玲子</u> 、北河 修治 シクロデキストリン包接化によるケルセチンの皮膚移行性の改善効果を評価し、発表した。
90. ステロイド軟膏剤の先発品と後発品とヒルドイドソフト軟膏との混合性—ステロイド軟膏剤に含有される界面活性剤の影響—	共	2016年03月	日本薬学会第136年会	大石 真央、近野 詩乃、西垣 彰人、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 ステロイド軟膏剤の先発品、後発品とヒルドイドソフト軟膏との混合性に及ぼす界面活性剤の影響を評価し、発表した。
91. ジメチルイソプロピルアズレンを含有する軟膏剤の先発品、後発品のレオロジー特性と混合操作によるその特性の違い	共	2016年03月	日本薬学会第136年会	近野 詩乃、大石 真央、山本 有紀、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 ジメチルイソプロピルアズレンを含有する軟膏剤の先発品、後発品のレオロジー特性と混合操作による影響を評価し、発表した。
92. フィルムコーティング剤の吸湿特性が錠剤の外観変化に及ぼす影響	共	2016年03月	日本薬学会第136年会	濱端 綾太、松島 由貴、寺岡 麗子、 <u>湯谷 玲子</u> 、北河 修治 フィルムコーティング剤の吸湿特性が錠剤の外観変化に及ぼす影響を評価し、発表した。
93. ロピナビル・リトナビル配合内用液または配合錠とアバカビル硫酸塩・ラミブジン配合錠の同時簡易懸濁法適用について	共	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会	坪田 有加、松尾 理世、寺岡 麗子、矢倉 裕輝、 <u>湯谷 玲子</u> 、北河 修治 ロピナビル・リトナビル配合内用液または配合錠とアバカビル硫酸塩・ラミブジン配合錠の同時簡易懸濁法適用の可否について検討し、発表した。
94. シクロデキストリン包接化によるエピガロカテキンガレートの経皮吸収性改善	共	2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会	宮成 明歩、寺岡 麗子、 <u>湯谷 玲子</u> 、北河 修治 シクロデキストリン包接化によるエピガロカテキンガレートの経皮吸収性改善効果を評価し、発表した。
95. ポリグリセリンオレイン酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるレスベラトロールの皮膚デリバリー	共	2015年09月	日本油化学会第54回年会	小池 和彦、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 ポリグリセリンオレイン酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるレスベラトロールの皮膚デリバリー改善効果を評価し、発表した。
96. ポリフェノールの皮膚デリバリー改善に有用なマイクロエマルジョン成分の検討—補助界面活性剤が	共	2015年09月	日本油化学会第54回年会	信野 亜由美、片岡 悠、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 マイクロエマルジョン中の補助界面活性剤がポリフェノールの皮膚デリバリーに及ぼす影響を評価し、発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
皮膚デリバリーに与える影響ー 97.被覆材を用いたフェントステープ1 mg 貼付剤の用量調節II	共	2015年09月	第9回日本緩和医療薬学会年会	伊藤 真依、寺岡 麗子、湯谷 玲子、沼田千賀子、岡本 禎晃、平野剛、富田 猛、平井みどり、北河 修治 被覆材を用いてフェントステープの半面貼付を行った患者の使用済みテープ中の薬物残存率を評価することで、用量調節が可能かどうかを検討し、発表した。
98.被覆材を用いたフェントステープ1 mg 貼付剤の用量調節I	共	2015年09月	第9回日本緩和医療薬学会年会	三宅 真衣、寺岡 麗子、湯谷 玲子、沼田 千賀子、岡本 禎晃、平野剛、富田 猛、平井 みどり、北河 修治 被覆材を用いてフェントステープを半面覆った場合の薬物放出性と皮膚透過性を評価し、発表した。
99.ヘパリン類似物質含有油性クリーム剤の先発品、後発品のレオロジー特性とステロイド軟膏剤との混合性	共	2015年08月	第18回近畿薬剤師学術大会	近野 詩乃、大石 真央、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 ヘパリン類似物質含有油性クリーム剤の先発品、後発品のレオロジー特性とステロイド軟膏剤との混合性を評価し、発表した。
100.各種白色ワセリンのレオロジー特性の違いと混合操作の影響	共	2015年08月	第18回近畿薬剤師学術大会	三宅 真唯、猪原 振一、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 各種白色ワセリンのレオロジー特性の違いと混合操作の影響を評価し、発表した。
101.シヨ糖オレイン酸エステルマイクロエマルジョンを利用したレスベラトロールの効率的皮膚デリバリー	共	2015年05月	日本膜学会第37年会	湯谷 玲子、小守 佑果、寺岡 麗子、北河 修治 シヨ糖オレイン酸エステルマイクロエマルジョンによるレスベラトロールの皮膚デリバリー効率の改善効果を評価し、発表した。
102.マイクロエマルジョンの構成成分の違いによるレスベラトロールの皮膚デリバリーへの影響	共	2015年05月	日本薬剤学会第30年会	俵 周平、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 マイクロエマルジョンの構成成分の違いがレスベラトロールの皮膚デリバリーに及ぼす影響を評価し、発表した。
103.フロセミド/ニコチンアミドCocrystalの結晶多形の光安定性	共	2015年05月	日本薬剤学会第30年会	野田 有貴子、寺岡 麗子、湯谷 玲子、北河 修治 フロセミド/ニコチンアミドCocrystalの結晶多形の光安定性を評価し、発表した。
104.先発、後発ステロイド軟膏剤のレオロジー特性と油性クリーム剤との混合性	共	2015年05月	日本薬剤学会第30年会	西垣 彰人、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 ステロイド軟膏剤の先発品、後発品のレオロジー特性の違いと油性クリーム剤との混合性を評価し、発表した。
105.ステロイド軟膏剤の先発品、後発品のレオロジー特性及びクリーム剤との混合性の違い - 界面活性剤の影響 -	共	2015年03月	日本薬学会第135年会	小谷 隆一、内田 梓、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 ステロイド軟膏剤の先発品、後発品のレオロジー特性とクリーム剤との混合性に及ぼす界面活性剤の影響を評価し、発表した。
106.ステロイド軟膏剤のレオロジー特性に及ぼす添加物の影響	共	2015年03月	日本薬学会第135年会	内田 梓、小谷 隆一、山下 優太、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 ステロイド軟膏剤のレオロジー特性に及ぼす添加物の影響を評価し、発表した。
107.平衡相対湿度がアムロジピン口腔内崩壊錠の製剤特性に及ぼす影響	共	2015年03月	日本薬学会第135年会	岡田 和也、東城 守夫、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 平衡相対湿度がアムロジピン口腔内崩壊錠の製剤特性に及ぼす影響を評価し、発表した。
108.レボフロキサシン-サッカリンCocrystalの光安定性	共	2015年03月	日本薬学会第135年会	馬淵 はな、長瀬 弘昌、都出 千里、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 レボフロキサシン-サッカリンCocrystalの光安定性を評価し、発表した。
109.ペンタグリセロールラウリン酸エステルを用いたマイクロエ	共	2014年11月	第36回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム	北河 修治、東 円恵、湯谷 玲子、寺岡 麗子 ペンタグリセロールラウリン酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるレスベラトロールの皮膚デリバリー効率を評価し、発

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
マルションによるレスベラトロールの効率的皮膚デリバリー				表した。
110.被覆材を利用したフェントステープの投与量コントロール	共	2014年10月	第8回日本緩和医療薬学会年会	塩野 朋香、寺岡 麗子、湯谷 玲子、沼田 千賀子、松田 ゆかり、岡本 禎晃、平野 剛、富田 猛、平井 みどり、北河 修治 被覆材を用いてフェントステープの半面貼付を行った患者の使用済みテープ中の薬物残存率を測定することで、用量調節が可能かどうかを評価し、発表した。
111.クリーム剤の先発品と後発品のレオロジー特性と軟膏剤との混合性 -ヘパリン類似物質クリーム剤についての検討-	共	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会	吉本 晃一、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 ヘパリン類似物質クリーム剤の先発品と後発品のレオロジー特性と軟膏剤との混合性の違いを評価し、発表した。
112.種々の補助界面活性剤を用いたマイクロエマルションによるレスベラトロールの膜透過性比較	共	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会	片岡 悠、武安 恵太郎、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 種々の補助界面活性剤を用いたマイクロエマルションによるレスベラトロールの膜透過性を比較評価し、発表した。
113.ショ糖ラウリン酸エステルを用いたマイクロエマルションによるレスベラトロールの膜透過性改善	共	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会	武安 恵太郎、片岡 悠、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 ショ糖ラウリン酸エステルを用いたマイクロエマルションによるレスベラトロールの膜透過性改善効果を評価し、発表した。
114.レスベラトロールの効率的皮膚デリバリーシステムとしてのショ糖脂肪酸エステルマイクロエマルションの有用性	共	2014年09月	日本油化学会第53回年会	湯谷 玲子、小守 佑果、寺岡 麗子、北河 修治 レスベラトロールの皮膚デリバリーシステムとしてのショ糖脂肪酸エステルマイクロエマルションの有用性を評価し、発表した。
115.レスベラトロールの皮膚移行性に及ぼすヒドロキシプロピルシクロデキストリン添加量の効果	共	2014年09月	第31回シクロデキストリンシンポジウム	稲積 りさ、田尾 和之、寺岡 麗子、湯谷 玲子、北河 修治 レスベラトロールの皮膚移行性に及ぼすヒドロキシプロピルシクロデキストリン添加量の効果を評価し、発表した。
116.デキサメタゾンプロピオン酸エステル軟膏剤における先発品、後発品のレオロジー特性の違い及び保存による変化	共	2014年09月	第24回日本医療薬学会年会	山下 優太、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 デキサメタゾンプロピオン酸エステル軟膏剤の先発品、後発品のレオロジー特性の違いと保存による変化を評価し、発表した。
117.ジフルプレドナート軟膏剤の先発品、後発品のレオロジー特性及びクリーム剤との混合性の違い	共	2014年09月	第24回日本医療薬学会年会	小谷 隆一、内田 梓、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 ジフルプレドナート軟膏剤の先発品、後発品のレオロジー特性とクリーム剤との混合性の違いを評価し、発表した。
118.簡易懸濁法を適用するためのマラビロクの安定性評価	共	2014年09月	第24回日本医療薬学会年会	和田 美紀、矢倉 裕輝、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 マラビロクの簡易懸濁法適用の可否を熱安定性の観点から評価し、発表した。
119.インドメタシンカプセルの溶出率に影響を及ぼす要因	共	2014年09月	第24回日本医療薬学会年会	庄司 聖、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 保存後のインドメタシンカプセルの溶出性が低下する要因を解析し、発表した。
120.Efficient skin delivery of resveratrol by microemulsion using pentaglycerol monolaurate as a	共	2014年08月	International Conference & Exhibition on Advanced & Nano Materials 2014	Shuji Kitagawa, Kazue Azuma, Reiko Yutani, Reiko Teraoka ペンタグリセリンモノラウリン酸エステルを用いたマイクロエマルションによるレスベラトロールの皮膚デリバリー改善効果を評価し、発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
121. surfactant component 2種類のCofomerを用いたインドメタシンCocrystalの光安定性比較	共	2014年05月	日本薬剤学会第29年会	寺岡 麗子、大西 弘道、 <u>湯谷 玲子</u> 、都出 千里、古石 誉之、長瀬 弘昌、上田 晴久、北河 修治 2種のCofomerを用いたインドメタシンCocrystalの光安定性を比較評価し、発表した。
122. 軟膏剤とクリーム剤の混合に伴う経皮吸収性の増大とレオロジー特性の変化	共	2014年05月	日本薬剤学会第29年会	吉本 晃一、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 軟膏剤とクリーム剤の混合に伴う経皮吸収性の増大とレオロジー特性の変化を評価し、発表した。
123. ペンタグリセリンモノラウリン酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるレスベラトロールの効率的皮膚取り込み	共	2014年05月	日本薬剤学会第29年会	東 円恵、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 ペンタグリセリンモノラウリン酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるレスベラトロールの皮膚デリバリー改善効果を評価し、発表した。
124. レスベラトロールの皮膚移行性に及ぼす各種シヨ糖脂肪酸エステルマイクロエマルジョンの効果	共	2014年05月	日本薬剤学会第29年会	<u>湯谷 玲子</u> 、小守 佑果、寺岡 麗子、北河 修治 レスベラトロールの皮膚移行性に及ぼす各種シヨ糖脂肪酸エステルマイクロエマルジョンの効果を評価し、発表した。
125. Photostability of furosemide cocrystals	共	2014年04月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress	Reiko Teraoka, Takayuki Furuishi, Hiromasa Nagase, Haruhisa Ueda, Chisato Tode, Yuya Onishi, <u>Reiko Yutani</u> , Shuji Kitagawa フロセミドCocrystalの光安定性を比較評価し、発表した。
126. Microemulsion using sucrose laurate and its application on skin delivery of resveratrol and chlorogenic acid	共	2014年04月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress	<u>Reiko Yutani</u> , Taketomo Kikuchi, Reiko Teraoka, Shuji Kitagawa シヨ糖ラウリン酸エステルマイクロエマルジョンによるレスベラトロールとクロロゲン酸の皮膚デリバリー改善効果を評価し、発表した。
127. 各種白色ワセリンのレオロジー特性と混合操作及び流動パラフィンの添加に伴う変化	共	2014年03月	日本薬学会第134年会	稲生 沙耶、山下 優太、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 各種白色ワセリンのレオロジー特性と混合操作及び流動パラフィンの添加に伴う変化を評価し、発表した。
128. 白色ワセリンのレオロジー特性に及ぼすプロピレングリコール、モノステアリン酸グリセリンの影響	共	2014年03月	日本薬学会第134年会	山下 優太、稲生 沙耶、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 白色ワセリンのレオロジー特性に及ぼすプロピレングリコールとモノステアリン酸グリセリンの影響を評価し、発表した。
129. Cocrystal形成によるインドメタシンの光安定化	共	2014年03月	日本薬学会第134年会	大西 弘道、古石 誉之、長瀬 弘昌、上田 晴久、都出 千里、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 Cocrystal形成によるインドメタシンの光安定性の改善効果を評価し、発表した。
130. シヨ糖脂肪酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるレスベラトロールの皮膚取り込み改善	共	2014年03月	日本薬学会第134年会	小守 佑果、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 シヨ糖脂肪酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるレスベラトロールの皮膚デリバリー改善効果を評価し、発表した。
131. ポリグリセリン脂肪酸エステルマイクロエマルジョンによるエピガロカテキンガレート、レスベラトロールの皮膚取り込みと界面活性剤濃度の影響について	共	2014年03月	日本薬学会第134年会	吉住 優里、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 ポリグリセリン脂肪酸エステルマイクロエマルジョンによるエピガロカテキンガレートとレスベラトロールの皮膚デリバリーに及ぼす界面活性剤濃度の影響を評価し、発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
132. マイクロエマルジョンによるクロロゲン酸及びレスベラトロールの皮膚取り込みに及ぼす構成成分の影響	共	2014年03月	日本薬学会第134年会	足立 愛、河崎 紗穂、吉住 優里、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 マイクロエマルジョンによるクロロゲン酸とレスベラトロールの皮膚取り込みに及ぼす構成成分の影響を評価し、発表した。
133. テトラグリセリンラウリン酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるレスベラトロール及びその他のポリフェノールの効率的皮膚デリバリー	共	2013年11月	第35回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム	北河 修治、河崎 紗穂、檜山 薫、足立 愛、吉住 優里、湯谷 玲子、寺岡 麗子 テトラグリセリンラウリン酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるポリフェノールの皮膚デリバリー効率の改善効果を評価し、発表した。
134. シクロデキストリン誘導体の包接化によるレスベラトロールの皮膚取り込み改善	共	2013年9月	第30回シクロデキストリンシンポジウム	猪西 敏史、寺岡 麗子、湯谷 玲子、北河 修治 シクロデキストリン誘導体の包接化によるレスベラトロールの皮膚取り込み改善効果を評価し、発表した。
135. 1日1回貼り替え型経皮吸収型持続性痛痒治療剤フェンタニル貼付剤の使用が製剤からのフェンタニル放出率に与える影響	共	2013年09月	第7回日本緩和医療薬学会年会	豎 ゆりか、寺岡 麗子、湯谷 玲子、沼田 千賀子、岡本 禎晃、平野 剛、富田 猛、平井 みどり、北河 修治 1日1回貼り替え型フェンタニル貼付剤の使用が製剤からのフェンタニル放出率に与える影響を評価し、発表した。
136. 1日貼り替え型フェンタニル貼付剤のフェンタニル放出量に影響を与える因子の検討	共	2013年09月	第7回日本緩和医療薬学会年会	中山 みずえ、寺岡 麗子、湯谷 玲子、沼田 千賀子、岡本 禎晃、平野 剛、富田 猛、平井 みどり、北河 修治 1日貼り替え型フェンタニル貼付剤のフェンタニル放出量に影響を与える要因を解析し、発表した。
137. リトナビル錠の懸濁液及び粉砕品の安定性評価	共	2013年09月	第23回医療薬学会年会	大歳 菜美子、矢倉 裕輝、和田 美紀、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 リトナビル錠の懸濁液と粉砕品の安定性を評価し、発表した。
138. サリチル酸ワセリンとクリーム剤との混合によるレオロジー特性の変化	共	2013年09月	第23回医療薬学会年会	吉本 晃一、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 サリチル酸ワセリン軟膏とクリーム剤との混合によるレオロジー特性の変化を評価し、発表した。
139. 軟膏剤、ゲル剤のレオロジー特性に及ぼす混合の影響	共	2013年09月	第23回医療薬学会年会	東 佑輔、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 軟膏剤、ゲル剤のレオロジー特性に及ぼす混合操作の影響を評価し、発表した。
140. Cocrystal形成によるFurosemideの光安定性改善	共	2013年05月	日本薬剤学会第28年会	大西 裕哉、寺岡 麗子、湯谷 玲子、北河 修治 Cocrystal形成によるフロセミドの光安定性改善効果を評価し、発表した。
141. サリチル酸ワセリンの構造、粘度、展延性に及ぼす混合操作の影響とサリチル酸の経皮吸収性の変化	共	2013年05月	日本薬剤学会第28年会	藤原 恵、沖中 優太、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 サリチル酸ワセリン軟膏の構造、粘度、展延性に及ぼす混合操作の影響とサリチル酸の経皮吸収性の変化を評価し、発表した。
142. 混合操作に伴う白色ワセリンの構造及びレオロジー特性の変化	共	2013年05月	日本薬剤学会第28年会	沖中 優太、藤原 恵、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 混合操作が白色ワセリンの構造とレオロジー特性に及ぼす影響を評価し、発表した。
143. 難溶性薬物を用いたGT剤 (Gel Together剤) の溶出試験法の開発	共	2013年03月	日本薬学会第133年会	尾崎 由実、寺岡 麗子、湯谷 玲子、作間 豊、于 琳、盛本 修司、北河 修治 難溶性薬物を用いたGT剤 (Gel Together剤) の溶出試験法を開発し、発表した。
144. タルク含有PVA copolymer膜のピペミド酸転移抑制効果	共	2013年03月	日本薬学会第133年会	中井 慧、寺岡 麗子、湯谷 玲子、浦松 俊治、北河 修治 タルク含有PVAcopolymer膜のピペミド酸転移抑制効果を評価し、発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
145. 分子複合体生成による、レボフロキサシンの光安定性改善	共	2013年03月	日本薬学会第133年会	的場 涼子、寺岡 麗子、湯谷 玲子、都出 千里、北河 修治 分子複合体生成によるレボフロキサシンの光安定性改善効果を評価し、発表した。
146. テトラグリセリンモノラウリン酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるポリフェノールの皮膚取り込みと表皮真皮分布	共	2013年03月	日本薬学会第133年会	河崎 紗穂、坂本 泰範、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 テトラグリセリンモノラウリン酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるポリフェノールの皮膚デリバリー改善効果と皮膚中における分布を評価し、発表した。
147. フェノール酸の表皮真皮分布および経皮吸収性の分子量、疎水性への依存性	共	2013年03月	日本薬学会第133年会	藤田 奈朋美、檜山 薫、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 フェノール酸の皮膚中分布、経皮吸収性と分子量、疎水性との関係性を評価し、発表した。
148. マイクロエマルジョンを利用したレスベラトロールの皮膚取り込みと表皮・真皮分布	共	2013年03月	日本薬学会第133年会	檜山 薫、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 マイクロエマルジョンによるレスベラトロールの皮膚デリバリー改善効果と皮膚中における分布を評価し、発表した。
149. ポリフェノールの真皮移行性及び経皮吸収性を律する物理化学的性質	共	2012年11月	第34回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム	北河 修治、藤田 奈朋美、湯谷 玲子、寺岡 麗子 ポリフェノールの真皮移行性と経皮吸収性を律する物理化学的特性を解析し、発表した。
150. Efficient cutaneous delivery of chlorogenic acid and resveratrol using sucrose fatty acid ester microemulsions	共	2012年11月	日本薬物動態学会第27回年会	湯谷 玲子、菊池 武友、寺岡 麗子、北河 修治 ショ糖脂肪酸エステルマイクロエマルジョンによるクロロゲン酸とレスベラトロールの皮膚デリバリー改善効果を評価し、発表した。
151. 白色ワセリンと添加物あるいはクリームとの混合に伴うレオロジー特性の変化について	共	2012年10月	第22回日本医療薬学会年会	藤原 恵、沖中 優太、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 白色ワセリンを種々の添加剤と混合時あるいはクリーム剤との混合時に生じるレオロジー特性の変化を評価し、発表した。
152. 軟膏剤とクリーム剤との混合に伴うレオロジー的性質の変化	共	2012年10月	第22回日本医療薬学会年会	沖中 優太、藤原 恵、湯谷 玲子、寺岡 麗子、合田 俊一、室井 延之、北河 修治 軟膏剤とクリーム剤の混合により生じるレオロジー特性の変化を評価し、発表した。
153. 簡易懸濁法を適用するためのテノホビルジソプロキシル fumarate の熱安定性評価—2剤同時適用の場合—	共	2012年10月	第22回日本医療薬学会年会	大野 靖子、矢倉 裕輝、大歳 菜美子、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 2剤同時懸濁時のテノホビルジソプロキシル fumarate の熱安定性を評価し、発表した。
154. スルフィソミジンの光安定性に及ぼすシクロデキストリンの効果	共	2012年09月	第29回シクロデキストリンシンポジウム	井上 純一、湯谷 玲子、寺岡 麗子、北河 修治 スルフィソミジンの光安定性に及ぼすシクロデキストリンの効果を評価し、発表した。
155. マイクロエマルジョンによる抗酸化性薬物の皮膚デリバリーと表皮・真皮分布	共	2012年06月	第37回日本化粧品学会	北河 修治、長谷川 巧、久 知佳、高島 彩香、藤田 奈朋美、湯谷 玲子、寺岡 麗子 マイクロエマルジョンによる抗酸化物質の皮膚デリバリー改善効果と皮膚中における分布を評価し、発表した。
156. ショ糖ラウリン酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるクロロゲン酸の皮膚デリバリー	共	2012年05月	日本薬剤学会第27年会	湯谷 玲子、菊池 武友、川上 健太、寺岡 麗子、北河 修治 ショ糖ラウリン酸エステルを用いたマイクロエマルジョンによるクロロゲン酸の皮膚デリバリー改善効果を評価し、発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
157. O/W型マイクロエマルジョンによって促進されたポリフェノールの皮膚取り込みと皮膚中分布	共	2012年05月	日本薬剤学会第27年会	高島 彩香、長谷川 巧、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 O/W型マイクロエマルジョンによるポリフェノールの皮膚デリバリー改善効果と皮膚中における分布を評価し、発表した。
158. ポリグリセリン脂肪酸エステルを用いたマイクロエマルジョンの調製とレスベラトロールの皮膚取り込み	共	2012年05月	日本薬剤学会第27年会	坂本 泰範、河崎 紗穂、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 ポリグリセリン脂肪酸エステルマイクロエマルジョンによるレスベラトロールの皮膚デリバリー改善効果を評価し、発表した。
159. テルペンを加えたマイクロエマルジョンによるエピカテキンの皮膚デリバリー	共	2012年05月	日本薬剤学会第27年会	藤井 美紀、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 種々のテルペンを添加したマイクロエマルジョンによるエピカテキンの皮膚デリバリー改善効果を比較評価した。
160. フェノール酸の経皮吸収	共	2012年05月	日本薬剤学会第27年会	藤田 奈朋美、檜山 薫、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 各種フェノール酸の経皮吸収性を評価し、発表した。
161. 親水クリーム、吸水クリームのレオロジーとパラベンの皮膚透過性	共	2012年05月	日本薬剤学会第27年会	関野 陽子、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 親水クリーム、吸水クリームのレオロジー特性とパラベンの皮膚透過性を評価し、発表した。
162. 種々のカルバマゼピンCocrystalの光安定性比較	共	2012年05月	日本薬剤学会第27年会	寺岡 麗子、都出 千里、濱田 亮太、 <u>湯谷 玲子</u> 、森田 真也、北河 修治 種々のカルバマゼピンCocrystalの光安定性を比較評価し、発表した。
163. 1,3-ブタンジオールを補助界面活性剤として用いたマイクロエマルジョンによるクロロゲン酸の皮膚デリバリー	共	2012年03月	日本薬学会第132年会	田中 アイ、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治 1,3-ブタンジオールを補助界面活性剤として用いたマイクロエマルジョンによるクロロゲン酸の皮膚デリバリー促進効果を評価し、発表した。
164. 抗酸化性薬物の皮膚取り込みにおける分子量、疎水性への依存と皮膚中分布	共	2012年03月	日本薬学会第132年会	長谷川 巧、 <u>湯谷 玲子</u> 、森田 真也、寺岡 麗子、北河 修治 抗酸化物質の皮膚デリバリー、皮膚中分布と分子量、疎水性との関係を評価し、発表した。
165. 軟膏剤とクリーム剤との混合に伴う物性及び経皮吸収性の変化	共	2012年03月	日本薬学会第132年会	嶋田 典子、 <u>湯谷 玲子</u> 、寺岡 麗子、北河 修治、合田 俊一、室井 延之 軟膏剤とクリーム剤の混合に伴う物性及び経皮吸収性の変化を評価し、発表した。
166. カルバマゼピンCocrystalの光安定性評価	共	2012年03月	日本薬学会第132年会	濱田 亮太、寺岡 麗子、 <u>湯谷 玲子</u> 、森田 真也、北河 修治 種々のカルバマゼピンCocrystalの光安定性を比較評価し、発表した。
167. エアロゾルOTマイクロエマルジョンを用いたポリフェノールの皮膚デリバリー－他の界面活性剤を用いたマイクロエマルジョンとの比較－	共	2011年11月	第33回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム	<u>湯谷 玲子</u> 、川上 健太、菊池 武友、森田 真也、寺岡 麗子、北河 修治 エアロゾルOTを用いたマイクロエマルジョンによるポリフェノールの皮膚デリバリー改善効果を、他の界面活性剤を用いたものと比較評価し、発表した。
168. エアロゾルOTマイクロエマルジョンによるポリフェノールの効率的な皮膚デリバリー	共	2011年05月	日本薬剤学会第26年会	<u>湯谷 玲子</u> 、森田 真也、寺岡 麗子、北河 修治 エアロゾルOTを用いたマイクロエマルジョンによるポリフェノールの皮膚デリバリー改善効果を評価し、発表した。
<b>3. 総説</b>				
1. ファルマシアへの寄稿	単	2022年4月	日本薬学会	日本薬学会誌ファルマシアに、ヤススナノ粒子を経口デュアルドラッグデリバリーシステムとして応用できる可能性を示した最新の研究論文を紹介する記事を寄稿した。
2. 兵薬界への総説の寄稿	単	2019年01月	兵庫県薬剤師会	兵庫県薬剤師会誌「兵薬界」の2019年1月号の大学だより（テーマ：

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3. 総説</b>				
稿				大学と臨床現場とを繋ぐ研究―臨床現場の課題解決を目指して―に寄稿した。
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. Crystals Issue cover掲載	共	2019年11月	Crystals	Crystals誌の掲載論文に関するカラーイラストが2019年11月号のIssue coverに採択され、掲載された。 <a href="https://res.mdpi.com/data/covers/crystals/big_cover-crystals-v9-ill.png">https://res.mdpi.com/data/covers/crystals/big_cover-crystals-v9-ill.png</a>
2. Chemical and Pharmaceutical Bulletin 表紙掲載	共	2012年08月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin	Chemical and Pharmaceutical Bulletin誌の掲載論文に関するカラーイラストが、2012年1月号の表紙に採択され、掲載された。 <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/browse/cpb/60/8/_contents/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/browse/cpb/60/8/_contents/-char/ja</a>
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 受託研究	単	2020年8月～2021年07月	マルホ株式会社	タクロリムスの定量法検討及びin vitro皮膚透過試験による先発品と後発品の比較 研究担当者 湯谷玲子 受領金額 1,100千円/1年
2. 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 若手研究	単	2020年4月～2023年03月	日本学術振興会 科学研究費助成事業	皮膚外用剤の適正使用のための実使用に即した光安定性評価法の提案 研究代表者 湯谷玲子 受領金額 4,160千円/3年
3. 企業との共同研究	共	2018年07月～2019年06月	小林製薬株式会社	外用適用剤の塗擦を伴う経皮吸収性新評価方法に関する研究 研究分担者 坂根稔康、湯谷玲子 受領金額 1,000千円/1年
4. 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 若手研究	単	2018年04月～2020年03月	日本学術振興会 科学研究費助成事業	調剤業務の効率化を目指した半固形製剤の混合均一性の予測モデルの構築 研究代表者 湯谷玲子 助成金額 2,340千円/2年
5. 受託研究	共	2017年10月～2018年9月	エム・テクニク株式会社	シリカコートナノ粒子の皮膚透過及び安全性 研究責任者 坂根稔康 研究担当者 湯谷玲子 受領金額 1,500千円/1年
<b>学会及び社会における活動等</b>				
年月日	事項			
1. 2020年7月～現在	日本DDS学会会員			
2. 2012年06月～現在	日本医療薬学会会員			
3. 2011年04月～現在	日本薬剤学会会員			
4. 2009年02月～現在	日本薬学会会員			